

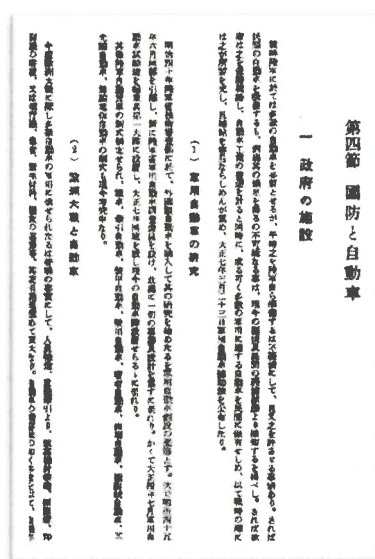


株式会社

クレス出版

冊子では入手困難な、近代日本の運輸・交通の歴史を明らかにする
貴重文献が、いま電子書籍でよみがえる！

運輸五十年史 (全3巻)



『運輸五十年史』運輸五十年史編纂局編 刊行にあたって

『運輸五十年史』は、近代的な交通機関を代表する鉄道が開設50年をむかえたことを記念し、運輸関係の業界紙出版社である「運輸日報社」が編纂・刊行したものである。

その特色の第一は、なによりもその広汎なカヴァレッジにある。序論、鉄道、海運、道路及水運、新時代の交通機関、燃料及動力、運送取扱業という編別から構成されるが、このうち「新時代の交通機関」では当時の最先端技術である自動車、飛行機、「自動車鉄道」「無限軌道」が紹介され、「動力及燃料」では、石油、石炭、水力発電の歴史的展開がフォローされる。「運送取扱業」編の設定は、業界紙の編纂ならではのことであろう。「鉄道」編をみても、国有鉄道、地方鉄道、軌道の章が建てられているのはもちろん、「電車」として電気鉄道発達史に触れ、その他車両製造業、関連事業、工事請負業、関係団体にまで及ぶ。本書はB5判で1,750ページにも達し、得られる情報はまことに膨大かつ多岐にわたる。

大正10年刊行の本書は、入手が極めて困難となっていたために、平成元年（1989）12月に紙媒体で復刻刊行した。しかし、数年で品切れとなりその後、絶版状態になっていたものを電子書籍で復刊したものである。今回の電子書籍化が、運輸・交通史その他の研究にいささかでも資するところがあれば幸いである。

書名	発行年	冊子版ISBN	同時1アクセス (本体価)	同時3アクセス (本体価)	商品コード
運輸五十年史 (全3巻)	1989	9784906330201	¥44,000	¥88,000	1036203572

● 表示価格は税抜きです。

2023年5月

Maruzen eBook Library は、学術・研究機関のための学術情報に特化した電子書籍をご提供する丸善雄松堂オリジナルのプラットフォームです

●運輸五十年史 全3巻構成〔目次〕

上巻		
第1編	序論	
第2編	鉄道	
1	緒言	
2	国有鉄道	〔目次抜粋〕鉄道の国有時代、官主私従時代、私主官従時代、国有鉄道の革新時代
3	地方鉄道	〔目次〕地方鉄道奨励時代、地方鉄道法の制定、最近に於ける地方鉄道
4	軌道	〔目次〕軌道事業の発達、電車、其他の軌道事業、殖民地に於ける軌道事業
5	汽車製造事業	〔目次〕製作技術の進歩、製作高と其内容、主なる製作工場
6	鉄道関係の諸事業	〔目次〕旅客に対する施設、鉄道工事請負業、鉄道関係の三団体
7	殖民地に於ける鉄道	〔目次抜粋〕満州大陸の鉄道、朝鮮に於ける鉄道、台湾に於ける鉄道、樺太に於ける鉄道
8	結論	
中巻		
第3編	海運	
1	緒言	
2	航運業	〔目次抜粋〕三菱会社独占時代、日清戦役前に於ける我航運業の概観、欧州戦争と本邦航運業
3	船舶造修業	〔目次抜粋〕欧州大戦を転期とせる船舶造修業、大戦後の本邦船舶造修業、世界造船界に於ける日本の地位
4	港湾	〔目次〕海岸線と港湾、開港、港湾の改良
5	殖民地に於ける海運	〔目次〕殖民地海運の消長、重なる航運業者、築港
6	結論	
第4編	道路及水運	
1	緒言	
2	道路	〔目次〕古代及中世の交通状態、徳川幕府の道路政策、明治時代の道路改良、道路法の制定
3	水運	〔目次〕維新当時に於ける河川、河川法の制定、治水調査会と改修工事の経過、河川の現況
4	結論	
下巻		
第5編	新時代の交通機関	
1	緒言	
2	自動車	〔目次〕急激なる自動車の発達、本邦に於ける自動車、自動車工業の現状、国防と自動車
3	航空機	〔目次〕飛行機の進歩、軍用飛行機と我国の現勢、空中輸送、航空船
4	其他の交通機関	〔目次〕自動車鉄道、無限軌道
5	結論	
第6編	燃料及動力	
1	緒言	
2	石炭	〔目次抜粋〕民業の勃興時代、欧州戦争と石炭業、炭鉱経営の現状と其实勢力、重要炭山の沿革
3	石油	〔目次抜粋〕旧幕時代に於ける石油業、維新以後に於ける発達、日露戦役前後の概況
4	水力電気	〔目次抜粋〕水電事業発達の初期、過渡時代の本邦電気事業、事業合同と保護奨励、鉄道電化
5	殖民地の燃料及動力界	〔目次〕石炭、石油、水力電気
6	結論	
第7編	運送取扱業	
1	緒言	
2	陸上運送取扱業	〔目次抜粋〕所謂鎖国時代の運送業、鉄道の開通と運送業、鉄道当局対運送業者
3	海運貨物取扱業	〔目次〕維新前後に於ける海上運送、海運事業の発展と回漕業
4	結論	
附録		
1	地方鉄道と其経営	
2	軌道	
3	主なる造船所	
4	海上倉庫事業	
5	鉄道省工事施行中主なる請負業者	
6	鉄道用品納入者	
7	二大運送業者	

●表示価格は税抜きです。

2023年5月